

# 景気後退の可能性

経済学者は景気に対して悲観的な発言をすることが多い、とお叱りを受けることがある。ただ、今の内外の経済状況を見ていると、この先の景気後退の可能性を想定しておく必要を強く感じる。それも物価が上昇する中での景気後退であるので厄介だ。

世界の情勢をざっと見てみよう。まず米国だが、足元ではインフレの中で雇用も需要も拡大傾向だ。コロナ禍からのリバウンドが強く働いている。ただ、このリバウンドがいつまでも続くとは思われない。物価上昇の中での景気後退を懸念



## 伊藤元重の エコノウオッチ

する専門家も少なくない。欧州経済はもっと深刻だ。ロシアからのエネルギー供給が断たれることが欧州経済に深刻な影響を及ぼすことは容易に予想できる。中国はどうか。コロナ禍への過剰な対応で上海などの閉鎖を行い、経済活動が厳しい影響を受けた。その後の回復は十分ではなく、中国での自動車やスマホなどへの需要は低調で、こうした動きが世界経済にも影響を及ぼしかねない。

その中で特に気になるのが半導体の動きだ。これまで半導体の需要は順調に拡大を続け、日本にもその恩

# デフレ体質脱却が必須

恵を受けてきた企業が少なくない。ただ、かつては半導体にはシリコンサイクルがあった。大きく需要が伸びた後では、需要が低迷するという循環があった。シリコンサイクルはなくなり需要は拡大を続けるという強気の見方もあるが、ここに来て半導体の先行きに不安感を持たせるような発言が報道されるようになった。

コロナ禍で、2020年には世界経済は戦後最悪の落ち込みを経験した。それを受けてのリバウンドが続いたので、今の段階で景気後退が顕在化しているわけではない。ただ、この先の景気の後退を懸念する経営者も多いはずだ。エネルギーや食糧の価格は当分高騰を続けるだろうから、物価上昇の中での景気後退という難しい状況になる。財政金融政策でどのような対応が必要なのかという議論はもちろん重要だが、企業もどのような対応が求められるのか考える必要がある。

物価上昇の中での景気後退である。景気が悪いからといって価格を下げることは難しい。コストが上昇している中では、価格を引き上げる必要さえあるだろう。景気が拡大基調にあれば、価格を引き上げても需要量が大幅に下がる、収益を維持することが可能だろう。しかし、景気後退が始まると安易な価格引き上げは売り上げを大きく減らす。インフレの中では、価格を引き下げてしのぐことはできないし、安易な価格引き上げも売り上げを大きく下げる結果になりかねない。

企業に求められるのは、価格を引き上げることが可能な商品開発や販売戦略である。もちろん簡単なことではない。商品の付加価値を高め、競合品との差別化を進め、販売手法の質を高める。こうしたことがデフレ体質から脱するためには必要であると言われているが、インフレの中での景気後退が進めば、そうした体質の変化を実現できるかどうかは企業の存続に関わることになる。デフレの時代は終わろうとしているのだ。(東京大学名誉教授)